

特43

館書會館			
室		492	
		第	
		四	
一冊	一二八號	二架	六函

北京道之記

026658-000-0

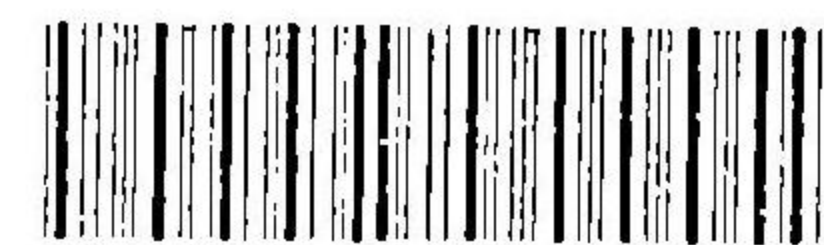
特43-492

北京道之記

キングノ著

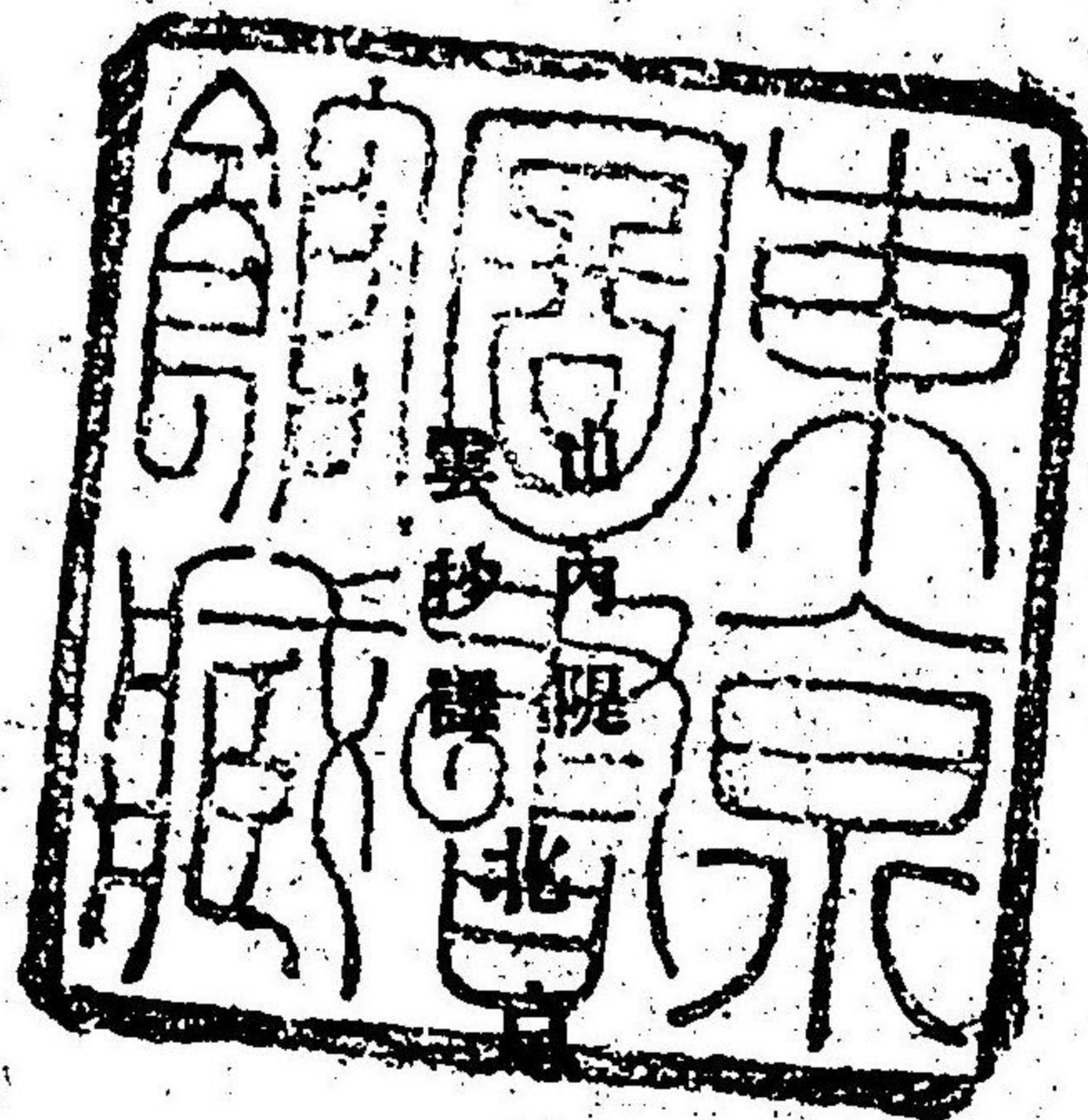
M3

ADD-0347



九世二

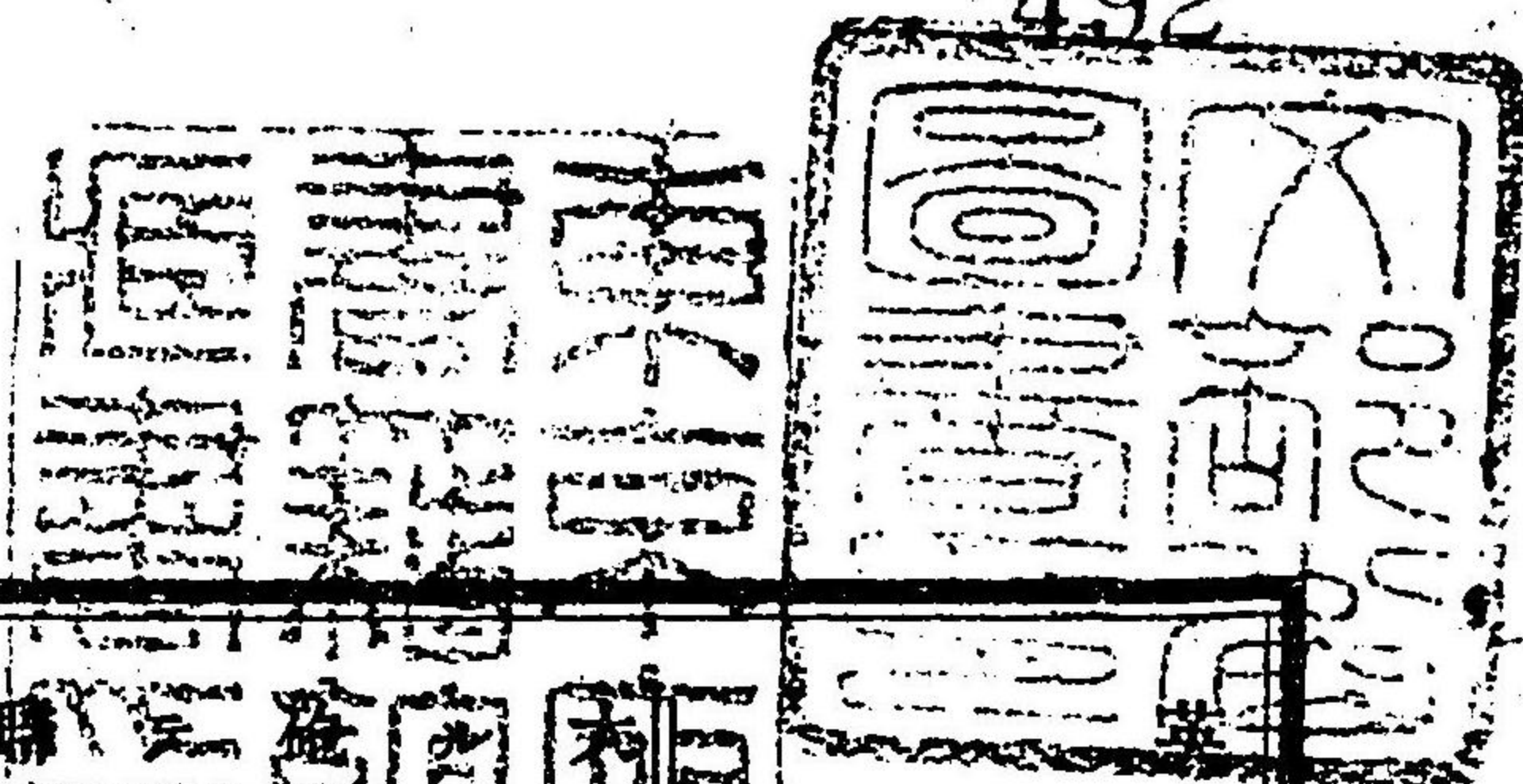
一本



道之記

全

特43
492



人キング氏著

北京道ノ記

千八百六十七年出版

山内堤雲 抄譯

大沽

北河ノ河口南岸ニ在ル一村落ナリ其北京ニ入
 口ニ在ルヲ以テ要害ノ地トス其兩岸ニ堅牢ナル
 アリテ天津北京ノ兩府ニ入ル咽喉ヲ占ムルヲ以
 人之レチ金城ト稱シ依頼スルヲ年アリ嘗テ英佛
 ノ攻撃ヲ蒙ルコト三回始テ頼ム可カラサルヲ知

レリ其初回ハ千八百五十八年五月廿日ニシテシル、ミ
 ツツエル、セイモール大將タリ此時ロルド、エルソン天
 津ニ溯リ六月廿六日和平ノ約ヲナセリ第二回ハ五十

北京道ノ記

九年六月中ニシテ此ノ時ハ奏効ナシ第三回ハ六十年八月廿一日ニシテ砲臺ヲ襲奪シ河中ノ水閘ヲ破却シテ英佛ノ軍天津ニ溯ルヲ得タリ第二回ニ我軍卒坭漿中ニ陥リテ砲傷セラレシハ乃チ南寨ノ前面ニ在ル沙坦ナリ大沽砲臺攻撃ノ詳細ヲ知ラント欲セハオリハント氏ノ著セルロールド、エルジン支郡紀行及ヒスウ
#ソフー氏ノ千八百六十年支那北方戰爭記ニ就テ見ル可シ此戰爭記ハ英軍北京ノ城門マテ進迫セル事實ヲ詳細ニ記録セリオリハント氏カ砲臺ノ形狀ヲ述ルハ(千八百五十八年)少シク詭怪ニ似タリト雖モ其大体ヲ盡セリト謂フ可シ曰ク中流ヨリ砲臺ヲ望見スレハ大塊ナル「メリエルド、バイ(菓子ノ名)ノ如ク其翩翩タル

旗章ハ恰モ菓子上ノ飾旗ニ髣髴タリト我軍ノ未ク此砲臺ヲ毀摧セザリシ時ハ其壯觀人目ヲ驚カセリ但シ毀摧ノ后ト雖モ其大体ノ形狀ハ依然變ルヲナシ大沽ハ其地平坦ニシテ河口通舟ノ水路ヲ認メ難シ茲ニ二碇泊場アリ河口ノ内外ニ在リ江外ハ海關番船ヨリ沙灘外、海ノ方ヘ三「マイル」ノ間ニ在リ江内ハ南岸リヤン、キヤー、ヤンヨリ北岸海關埠頭ノ間トス○大沽ノ近傍ニ二村落アリ東沽西沽ト云沙灘上、水ノ深サ大汎ノ時ハ凡ソ十四尺ニ至ル清人此沙灘ヲ稱シテ欄江沙ト云フ湖ノ模様ニ因テ漁船此欄江沙外ニ投錨シ滿潮ヲ俟テ越ユルヲアリ然レモ久シク滯泊スルハ罕ナリ秋末ニ至レハ時ニ河水落ナテ吃水七尺以上ノ船ハ

天津ニ至ル能ハサルヲアリ然レモ是モ亦常ニアラス
○河水及ヒ灣ノ北濱ハ大抵十二月九日ヨリ結氷ス故
ニ十一月下旬ヨリ來船少ナシ三月十日ヲ解氷ノ常期
トス
大沽ヨリ天津ニ至ル里程ノ概算ハ水路六十七マイル
陸路四十マイルトス水流曲折スルヲ以テ如此ノ差アリ
○大沽ヨリ北京ノ北凡ソ廿マイルノ間ハ平原ニシ
テ目ヲ遮ル者ナシ故ニ河ノ兩岸見ルニ足ル景色ナシ
○天津ノ半途ニ葛沽ト稱スル一繁榮ノ邑アリ川港中
ニ登ル水路ノ最モ通過シ難キ所ハ同府ヨリ下流凡ソ
廿マイルニ在リ北河ニ登ル船舶多クハ此ニ至リテ淺

類ニ乗スルコト毎回コレアリ但シ其報天津ニ達スレ
ハ通例同府ヨリ小舟下リ來リテ旅客ヲ乗セ去ル故ニ
久シク滯船ノ患ナシ
千八百六十五年英國領事ノ報單ニ曰ク大沽ヨリ天津
ニ至ル河ハ曲折多キヲ以テ航シ易カラス大沽ヨリ紫
竹林天津府洋マテ陸路三十四マイル水路六十マイル
餘ナリ○吃水十一尺以下ノ帆船ニハ充分ノ水アリ漚
船ノ十一尺半ナル者ハ大汛ノ時延滞ナク紫竹林ニ達
スト云フ此港ニ出入スル帆船ハ絶エス此水路ニ從事
スルヲ以テ其形小且ツ輕便ニシテ平均二百十噸舟ト
ス○葛沽ハ大沽ト天津府トノ半途ニ在リテ南方諸省
ノ唐船輻輳ノ地ナリ七月下旬ヨリ十月中旬マテ帆船

林立ス黃河及ヒ鎮江府ヨリ天津ニ至ル運河ノ未ダ損
 セザリシ時ハ南方諸省ノ穀船内地ヨリ天津府ニ來リ
 シカ近來運河所々損セルヲ以テ南州ノ穀類盡ク海路
 ヨリ北河ヲ登リ來レリ然レモ天津ノ如此繁華ヲ致ス
 者ハ尙此大土工運アルコト因レリ恐ラク上海廣東ノ外
 清國中内地水運ノ便ヲ占ムルハ天津ノ右ニ出ツル者
 ナカラシ六月頃マテハ運河水涸レテ小舟ニ非レハ通
 スルコト能ハサレモ黃河水益シ西藏解氷ノ水來リテ
 山東ノ張秋ニ於テ運河ニ入ルキハ流水頓ニ増加シ七
 月ニ至レハ大船モ遠ク内地ニ入ルヲ得ルナリ此時天
 津ヨリ臨清ノ間(清國一千里)洋品及ヒ南方ノ產物ヲ載
 ル船處トシテ有ラサルハナシ臨清ニ於テ渭河運河ト

合シテ大名府及ヒ河南ニ通ス故ニ河南山西陝西三省
 及ヒ山東ノ内地濟南府並東昌府モ亦有無相通スルヲ
 得ルナリ

大沽ヨリ陸路天津府ニ至ルニハ車ヲ雇フ可シ馬モ亦
 時ニコレアリ然レモ水路開通ノ間ハ陸行便ナラス其
 故ハ道路數十里ノ間低濕ノ平原ニシテ夏時ハ恆ニ潦
 水アリテ路上凹坑多シ假令淹水ナキモ數刻ノ豪雨ニ
 テ道路忽チ泥濘トナリ車輪轉シ難シ霖雨ノ節(六月中
 旬ヨリ九月下旬ニ至ル)ヲ最トモ甚シトス○天津府ニ
 至ル車行凡ソ八時間(休息ヲ算入ス)馬上凡ソ四時半ト
 ス但シ道路善良ナル時ノ算ナリ○大沽ヨリ天津ニ至
 ル車錢通例二圓馬モ亦同シ導夫等ノ備錢ハ定格ナシ

天津府

天津ハ北河ヨリ海濱ニ沿ヒ南東ノ方山東省ノ山角ニ至ルマテノ地名ニシテ一州六縣ヲ以テ成ル天津府ハ其總督府ニシテ北緯三十九度十分東經百十七度三分五十五秒運河ト北河ト相合スル所ナリ千七百八十二年マテハ一ノ鎮臺ナリシカ爾來一大總督府トナレリ人口凡ソ四十万過半ハ城内ニ住ス外郭アリ共ニ人家稠密ナリ○府ノ周圍ニ方形ノ城壁アリ其睥睨四字形ニシテ四隅ニ樓アリ一面ノ長サ一「マイル」ノ四分ノ三ニシテ周圍三「マイル」餘ナリ城隍ハ市中ノ惡水ヲ流スヲ以テ炎暑ノ節穢氣蒸發シ甚ク健康ヲ害ス市人ノ傳染病ニ罹リテ死亡スル者多キハ蓋シ之レニ感スルナ

毎歲虎狼病、惡性熱、及ヒ痘瘡ノ爲メニ死スル者多シ土人常ニ愛兒痘ヲ終レリヤト問フヲ以テ禮詞トス其痘ノ爲メニ斃ル、者多キヲ知ル可シ近來種痘ノ法大ニ行ハレ牛痘ヲ施ス者日々ニ多シ○紫竹林ヨリ市街ニ至ル途上河ノ右岸ニ據丘アリ遙ニ之レヲ望メハ小岡ノ連ナルルカ如シ此レ據ヲ積ミ筵ヲ以テ覆ヘルナリ據ハ政府ノ專賣品ニシテ之レヲ貯フルハ當府ヲ以テ第一トス市中北門大街ノ外ニハ廣濶ナル處ナシ皆狹隘汚穢ニシテ數石ナシ城外及ヒ對岸ニ人家多シ○洋客居留地即チ紫竹林ハ城ヨリ下モ凡ニ「マイル」ノ南岸ニアリ英人居留地ノ界ヨリ下流六町許ノ所ニ當リ兩岸ニ堅牢ナル土ノ砲臺アリ南寨ノ内ニ海關官吏ノ

家アリ又府城ヨリ凡ソ二「マイル」許ノ周圍ニ圓形ノ胸
壁アリ洋客呼テ林沁失策壁ト稱ス戰爭ノ時親王僧格
林沁ノ造レル所ナリ其一端ハ海關砲台案ニ接シ一端
ハ城ヨリ上流ノ河岸ニ至リテ終ル此壁ヲ造ルカ爲メ
ニ廣サ廿六尺許ノ溝渠ヲ穿テ河水ヲ引キタリ二三
ノ橋ヲ架シテ往來ニ便ス此胸壁洋人ノ攻撃ヲ蒙ラヌ
林沁ノ名譽ヲ失セサルハ大幸ト謂フ可シ
天津ヨリ北京ニ至ル凡ソ八十「マイル」清ノ二百四十
里通例通州マテ舟行シテ後ハ車馬ヲ以テス通州ヨリ
北京マテハ十三「マイル」ナリ客舟大小アリ一人乃至
四人ヲ乗ヌ溯流ハ舟ノ大小ニ因リテ舟金七圓ヨリ九
圓ニ至ル急流ナレハ益ヲ乞フ舟行ハ三月下旬ニ始リ

十二月上旬ニ終ル五六七八四ヶ月ハ暑氣強シシテ更
ニ衣服ヲ要セサレハ九月初旬ニ至レハ夜風寒冷「フ」ラ
ソケット「テ」豫備ス可シ○天津ヨリ通州マテ行程通例
四日トス初日ハヤン、ツン村ノ近傍ニ達シ翌日ハ「ホー
シウ」ニ至リ此ヨリ通州マテ凡ソ一日半ナレハ風勢ト
流勢トニ因リテ遅速アリ○通州ヨリ北京ニ至ル馬車
アリ定價一日四馬一輛一圓二馬一輛二圓トス
天津ヨリ北京ニ至ル陸行ナレハ天明ニ天津ヲ發シテ
午後一時頃ヤンツンニ達ス茲ニテ午飯ヲ喫シ休息一
時間更ニ發シテ夕七時ホーシウニ着シテ宿ス翌朝第
四時ヲ以テ該地出發ノ常刻トス是レ北京城門ノ閉鎖
前ニ府ニ入ルヲ期スル故ナリ午中「ヤン、キヤ、ワン

ニ若ス此地英清ノ古戰場ニシテ運河上ニ架セル板橋
(車道ヨリハ見エス)ハ即チ皇城ニ夷狄ノ進入スルヲ防
禦セントテ健兵ノ苦戰シテ終ニ大敗ヲ取リシ所ナリ
○天津ヨリ北京マテ車行通常三十六時間トス雨後ニ
發スレハ潦水道ニ溢レ泥濘車輪ヲ礙ソ三日ヲ越ユル
トアリ霖雨ノ時ハ殆ト通行ス可カラス

北京 順天府

北京ハ北河ヨリ北西十三「マイル」河口ヨリ西北西百十
「マイル」ニシテ砂原ナリ北緯三十九度五十四分十二秒
東經百十六度廿七分意太里ノナ「イ」ア「ルト」緯度チ同シ
ウス城壁ヲ貫流スル運河ヲヨ「ン」リ「ヤ」ン「ホ」ー「ト」云フ通
州ニ至リテ北河ニ注入ス

北京ハ昔時一城ニシテ九門アリ故ニ時ニ九門城ト稱
ス後南方ニ外城ヲ築キ二城トス北ヲ本城即チ健親城
南ヲ外城即チ支那城トス北城ハ方形ニシテ周圍方十
ニ「マイル」皇居、官省、軍營等皆此内ニアリ南城ハ長方形
ニシテ支那人多ク茲ニ住ス

本城ノ墻壁ハ高サ平均五丈北面ハ六丈餘ニ及フ所アリ
厚サ平均四丈許或ハ五丈七尺ナル所アリ又薄クシ
テ二丈二尺ナル所アリ壁ノ外面ハ直垂シ内面ハ傾斜
ス壁ノ前後ニ胸壁アリ前ハ銃眼アリテ睥睨四字形ヲ
成ス五十乃至六十「ヤルド」毎ニ大壁脚アリ○城門ノ左
右外面ハ石ヲ以テ造リ他ハ皆大ナル磚塊ニシテ其堅
牢ナルコト石ノ如シ中身ハ「コン」クレート「土」石ヲ練
固タルモノ

ト固ク澁シタル土トナリテ高サ十尺許ツ、交ニ重積
シテ壁上ニハ花崗石ヲ敷キタリ此壁堅牢ニシテ管テ
英ノ工兵一道ヲ開カントセシニ能ハスト云フ
外城ノ牆壁ハ其南面ノ西東兩端北城ト接スル所マテ
總テ高サ三丈厚サ基線ニテ二丈五尺上部ハ一丈五尺
ニ過キス其内面傾斜多キヲ以テナリ晚今ノ測量ニ據
レハ北城ノ周圍ハ十四「マイル」半南城ハ十四「マイル」其
北城ト合スル所ヨリ十「マイル」ニシテ二城ヲ合スルハ
廿「マイル」餘トス「北城即チ本城ハ内ニ二壁アリテ三重
トス中央ハ即チ皇居ナリ次ハ宮廷其他官省ナリ此二
ツヲ總稱シテ皇城ト云フ其外ハ町家ナリ皇城廣サ凡
ソ方ニ「マイル」城壁ハ雙磚ニシテ壁上葺クニ黃色ノ瓦

ヲ以テス四面各一城門アリ壁ノ四隅及ヒ門上ニ櫓ア
リテ兵卒ヲ容ル可シ

皇居ハ廣サ方一「マイル」四方壁アリ赤磚ニテ造リ睥睨
四字形ヲ成ス○皇城ノ表門ヲ大清門ト云フ前門ト對
シ本城ノ南壁内ニ在リ低クシテ美ナラス

皇城ニ洋客ノ入ルヲ禁ス故ニ詳カナラス概略如左「大
清門内ニ廷アリテ左右各一門ヲ開ク東ヲ東三坐門ト
云ヒ西ヲ西三坐門ト云フ入口ニ對シテ北ニアル者ハ
天安門其後ハ瑞門其次ニ午門アリ此内ハ則チ内裏ノ
南口ニシテ内裏ヨリ第二ノ門ナリ門樓ニ登聽鼓ヲ懸
ク明代ニ用非シ者ニテ當時冤罪アリテ正裁ヲ得サル
者之レヲ打ツヲ許セリト云フ但シ之レヲ打ツ者ハ死

ニ處ス(今ハ清帝行幸ノ時打テ行テ警スト云フ)○橋ニ
合戰ノ後英佛ノ將校清帝ニ謁シテ俘囚ヲ返シタル所
ナリ○午門ノ内ニ又廷アリ小流アリテ五橋ヲ架ス皆
刻鏤セル欄杆獅子等ノ彫飾アリ美麗ナル大理石ヲ以
テ造レリ此廷ノ左ニ錫和門アリ右ニ陽和門アリ正面
ニ大和殿アリ五橋ヨリ此殿ニ通スル五道皆大理石ヲ
敷キタリ此殿高サ百十尺基趾マテ二十尺五階アリ每
階四十二級欄杆等各種ノ彫飾アリ五道ノ内中央ハ尤
モ廣クシテ皇帝之レヲ專ニス皇族貴官ハ其左右ノ二
道ヲ取リ餘ハ又其左右端ノ二道ニ依ル
大和殿ノ后ニ門アリ其内ニ内裏トス四大殿二小殿ア
リ正宮、東宮、西宮、及ヒ金鑾殿ヲ大殿トシ寧壽宮、乾清宮

ヲ小殿トス皇大皇后此小殿ニ居ル南城即チ外城ヨリ
本城ニ通スル三門アリ哈大門(崇文門)前門(正陽門)順治
門(宣武門)ト云フ皆日没チ以テ閉鎖ス二城ノ諸門夜ハ
盡ク鎖シテ開クコトナシ此城内商賈多シ名所モ亦多シ
左ニ一ニヲ掲ク
一天壇 周圍ニ「マイル」餘中南門ヨリ正北ニ通スル大
街ノ東側ニ在リ天臺ハ高サ三丈圓形ニシテ三重ナリ
其周圍上ハ六丈中ハ九丈下ハ十二丈大理石ヲ以テ造
レリ四方ニ牆壁アリテ青瓦ヲ覆フ
一地壇(一名先農壇) 周圍ニ「マイル」ノ城内ニ在リ四石
臺アリ天地歲星及ヒ神農ノ四神ヲ祭ル此近傍ニ黑龍
潭アリ

一金魚池 天壇ヲ距ルコト六町許
一菜市口 處刑場ナリ
其他寺院神殿遊園等多シ用城ノ位置等ハ圖ニ就テ見
ル可シ

北京道之記終

シ

山内隄雲先生藏



東京馬喰町二丁目

發兌人書林島村利助

總分人...

東京...

山...

